



毎月第1土曜・第3日曜 午前10時～12時

※天候等により日時が変更になることもあります。

水辺のさとをぐるっと一回りして、観察された生きものを記録します。参加者同士で教え合うスタイルの観察会です。

【場所】水辺のさと(水元公園内)

【参加費】一人につき100円

【申込方法】ホームページにて受付



11/3(日) 午前10時～午後3時30分

第19回水元公園ふれあいフェスティバル

当ブースでは、水元公園に生息している魚やカメなどの生きものや、外来生物の剥製などの展示をします。どなたもお気軽にお越しください!

【場所】水元公園はなしょうぶ広場
(京成バス[金63]はなしょうぶ園バス停近く)

【参加費】入場無料



とんぼ
秋津 2024 秋

秋津(あきつ)とは、トンボの古い呼び名。そして日本は昔、「秋津島」と呼ばれていました。



【今月のテーマ】 実りの秋

カラスウリ [ウリ科]

つる性の植物で、果実は熟すと赤くなる。名前の由来は、「カラスが好んで実を食べるから」、反対に「食べずに残すから」、「スズメウリの実と比べて大きいから」など、諸説ある。未熟な果実は、緑色で縦に白い縞が入る。

実りの秋

秋も深まり冬に近づいていく10月～11月。水辺のさとも秋になると、色形さまざまな植物の実を観察することができます。

自然観察会で観察された動植物の記録や、
広報紙のバックナンバーはこちら▶▶
<https://mizumoto-np.jpn.org/akitsu/>



ノブドウ [ブドウ科]

つるをのぼして他のものに巻きつく。成長すると茎が木のようになる。果実は鮮やかな青や紫などに色づくが、多くの場合、中に昆虫の幼虫が入っているので、食べられない。



キカラスウリ [ウリ科]

カラスウリに似ているが、果実はカラスウリより丸みがあり、熟すと黄色になる。キカラスウリの根から採れるでん粉は天花粉(てんかふん)と呼ばれ、あせもの予防に使われる。



タンキリマメ [マメ科]

豆のさやは、熟すと赤くなる。さやの中には、かたくてツヤのある黒い豆(種子)が2個ほど入っている。「痰切豆」と書くが、実際に薬として利用されることは、ほとんどないらしい。



マユミ [ニシキギ科]

果実は熟すると果皮(かひ)がピンク色になり、4つに割れる。中には赤い仮種皮(かしゅひ)に包まれた種子が入っている。この赤い種には毒があるが、鳥に食べられている。



ノイバラ [バラ科]

ノバラともいう。花は5～6月頃に咲く。熟した赤い実が目立つようになるのは9～11月頃。果実は甘みがあり食べられるが、薬用としては下剤の効果があるので、食べ過ぎに注意。



クサギ [シソ科]

遠くから見ると花のように見えるが、赤紫色の部分は「がく」で、真ん中に丸くて青い果実がつく。果実を鳥に食べさせて、種子を運んでもらう。葉や茎は、ちぎると臭いにおいがする。